

授業科目名：コミュニティデザイン論	教員の免許状取得のための必修科目（選択科目）	単位数： 2単位	担当教員名：渡部陽介 担当形態 単独
実務内容 (実務家教員の場合)	建設事業に関わる自然環境・景観保全について評価・計画手法の研究開発に従事。また、景観ワークショップやコミュニティガーデンの社会実験等、地域連携プロジェクトの経験を有する。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>A～F、6つの学位授与方針すべてに関係している。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>➢ 主題である農のコミュニティデザインは、自然科学・人文社会科学にまたがる学際的課題であり、狭い専門領域を超えて統合している。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>➢ ローカルな自然共生の実践において専門家・住民・NPO・行政等が協働する現場の事例を紹介し、専門知・統合知を活かした実践への動機付けの機会をつくっている。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>➢ 農の営みを通じた人と自然、人と人とのつながりを学び、共感理解教育の理念・実践への理解を促している。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>➢ SDGsの包摂的・統合的な理念への理解を深めつつ、自然共生をめぐる多様な主体の連携事例を学ぶことで、共生社会の創造に貢献する姿勢を養う。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>➢ 土地の自然・社会条件を読み解く視点を学び、自律的な課題探求能力を身につける。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p> <p>➢ 農という農山村・都市に幅広く存在しているテーマを探求するきっかけをつくり、ローカルな自然共生について受講後も身近なまち・地域で継続的に学び続けられる動機を喚起する。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバルな地球規模の危機とローカルな暮らしのつながりについて理解を深める。 ・ 伝統的な農の営みから人と自然の共生的なかかわりのあり方を学ぶ。 ・ 現代社会における農のコミュニティデザインの可能性と課題を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、プラネタリーバウンダリーやSDGsの基礎知識を学びながら、気候変動など地球規模の危機と暮らしのつながりについて理解を深める。その上で、伝統的な農の営みを学び、現代におけるロ</p>			

ーカルな自然共生を基軸したコミュニティデザインについて様々な事例を紹介しつつ学んでいく。ここでいう「農」は農地での農業生産にとどまらず、生活や遊び、信仰などを通じて里山、草地、川など地域の多様な自然とかかわる営みである。近代化のなかで縮小してきた農の営みが、現代社会で再評価され、農山村はもちろん、郊外や都市においてさまざまなコミュニティづくりが展開され始めている。地球環境危機と社会問題の深刻化といったグローバルな事象と人口減少や突発的な自然災害のようなローカル事象が複雑に絡み合う現代社会において、農のコミュニティデザインの可能性と課題を考えていく。

授業計画

- 第1回： 自然共生社会とは？
- 第2回： 人新世とプラネタリー・バウンダリー
- 第3回： 生態系と人間の福利のつながりーミレニアム生態系評価と生態系サービス
- 第4回： 自然を基盤とした社会・経済の持続可能性
- 第5回： 伝統的な農の営み（1）：里地里山の持続的な土地利用システム
- 第6回： 伝統的な農の営み（2）：人間と自然の多層的なコミュニティ
- 第7回： 近代化と農の変貌（1）：産業化と社会構造の変化による農の衰退
- 第8回： 近代化と農の変貌（2）：都市の成長・拡大と地の文脈としての農
- 第9回： 近代化と農の変容（3）：地域コミュニティの否定・解体
- 第10回： 現代社会における農の再生（1）パラダイムの転換ー環境危機と縮退の時代
- 第11回： 現代社会における農の再生（2）：里地里山の再生
- 第12回： 現代社会における農の再生（3）：農と共生するまちづくり
- 第13回： 現代社会における農の再生（4）：都市農村交流
- 第14回： 農がひらくグローバルコミュニティ
- 第15回： 総括

定期試験

スクーリングでの学修内容

第1回～第15回までの内容の要点について講義を行う。また、グループディスカッションなどアクティブラーニングの手法を用いる。

教科書

- (1) 国際連合大学高等研究所・日本の里山・里海評価委員会（編）：里山・里海ー自然の恵みと人々の暮らし，朝倉書店，ISBN:978-4-254-18035-0 C3040
- (2) J. ロックストーム・M. クルム：小さな地球の大きな世界 プラネタリー・バウンダリーと持続可能な開発，丸善出版，ISBN978-4-621-30302-3
- (3) 横張真・渡辺貴史（編）：郊外の緑地環境学，朝倉書店，ISBN 978-4-254-18503-4
- (4) 内山節：増補 共同体の基礎理論，農文協，ISBN 978-4-540-1419-3

参考文献

- (1) 鬼頭秀一：自然保護を問い直す，ちくま新書，ISBN978-4480056689
- (2) 広井良典：コミュニティを問い直す，ちくま新書，ISBN978-4-480-06501-8 C0236
- (3) 山崎亮：コミュニティデザインの時代 自分たちで「まち」をつくる，ISBN978-4-12-102184-7
- (4) 安室知：都市と農の民俗 農の文化資源化をめぐる，慶友社，ISBN978-4-87449-097-6

学生に対する評価

レポート評価（25%），スクーリング評価（25%），科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。